

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22710258

研究課題名(和文)近代国家における文化政策史の比較研究：昭和期日本と韓国・欧米

研究課題名(英文)Comparative Researches on the History of Cultural Policies in the Modern Nation States: Showa Japan, Korea, and the Western Countries

研究代表者

朴 祥美 (Park, Sang Mi)

東京大学・教養学部・准教授

研究者番号：50508447

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「独特な日本文化」というような、日本文化を他国・他文化から切り離して捉える見方に挑戦し、日本文化政策史をトランスナショナルな文脈から再考する。一方で日本は、戦時期には欧州の文化政策の方法論を受容し、占領期にはアメリカの文化的浸透と競う中で、自国文化に対する自信を高揚させてきた。他方、高度成長期には、自らの文化政策の経験を解放後の韓国に教示してきた。本研究は、一見、一国にユニークな現象に見える「文化」というものが実は他国との関係から「政策」として形作られていくものであることを明らかにする。

研究成果の概要(英文)：This research examines the historical process of Japan's promotion of cultural policy in the era of Showa, and contributes to a better understanding of the discourse of cultural politics in modern nation states. It expands the discussion to include the way in which the wartime Japanese government adopted the methodology of cultural policies of the Western countries; later competed some of their own cultural representations with Americanism after the war defeat; and the ideas and forms of Japanese cultural policy influenced the post-colonial South Korean government.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：地域研究 東アジア 文化政策 近現代日本史 日韓関係

1. 研究開始当初の背景

近年、日本大衆文化においては「昭和」という言葉がブームとなっており、昭和は、すでに「歴史」として再検討すべき時代となったといえる。実際、近代日本史分野において大正文化についてはすでに十分論じられているにもかかわらず(南博、Jordan Sandによる研究)、昭和期については未だ総合的な考察が行われておらず、これに注目する必要がある。

申請者は、この研究テーマに着手するにあたって、1970 - 80年代、日本が経済大国になるにつれて浮上した文化論に注目してきた。当時、政府レベルでは「文化日本」というスローガンを立ち上げ(大平、中曽根首相の国会演説文)、他方、国民の間では日本人論や日本文化論(Harumi Befuによる研究)が流行した。

このような文化論の登場の背景には、戦後日本の驚異的な復興に対する世界からの注目、それに対する日本人の自負心、そして国際社会において高まる、日本の国際貢献への要求などが相関しているというのが、通常の見方であった。この例からわかるように、一見、「文化」は、国際的影響力や経済力といった、ある国家の内発的な変化の表象として捉えられやすいが、このような捉え方に対する疑問が本研究の出発点である。

本研究は、こうした通説に対して、文化形成を他国・多文化との歴史的ディコースの産物として理解し、日本の「文化」が「政策」としてプロモーションされてきた過程を解釈し直すものである。日本は、孤立した「独自の文化」を推進してきたというよりも、欧米諸列強が実践した文化政策を自らの歴史的な文脈(帝国表象、戦争動員、占領人との競争、経済復興など)に置き直して展開してきたのであり、他方、戦後の脱植民地アジア諸国には文化政策のモデルとして影響を与えてきた。こうした観点から、戦時期から高度成長期までを通じて行われた日本における「文化国家」の内容を再考察したいというのが、申請者の着想に至った経緯である。

2. 研究の目的

本研究は、「独特な日本文化」というような、日本文化を他国・他文化から切り離して捉える見方に挑戦し、日本文化政策史をトランスナショナルな文脈から再考する。

一方で日本は、戦時期には欧州の文化政策の方法論を受容し、占領期にはアメリカの文化的浸透と競う中で、自国文化に対する自信を高揚させてきた。他方、高度成長期には、自らの文化政策の経験を解放後の韓国に教示してきた。

本研究は、一見、一国にユニークな現象に見える「文化」というものが実は他国との関係から「政策」として形作られていくものであることを明らかにする。

3. 研究の方法

[1] 学会発表

北米とアジア諸国で開かれた、東アジアの歴史や文化関連の様々な国際学会に参加し、研究成果を発表した。発表のほかに、討論者としても参加し、情報提供を行った。

[2] 執筆

英文の査読付学術雑誌に数件の論文を投稿した。査読者や研究協力者からコメントを取得するなどの小成果を重ねることによって、本研究の大きな論点をも改めて絞り重ねることができた。

こうした活動の成果として、2014年度には、単行本が刊行される予定である。

共著については、関連分野の日本人研究者といくつかの図書執筆を行った。

また、海外における日本研究にも協力を行うため、韓国語に翻訳された日本史関連書籍に解題を掲載した。

[3] 海外調査

欧米・アジアにおける文化政策者、歴史学者とアイデアの交換や連携活動を行った。アジア歴史研究におけるこうした国際的スカラシップの更新はまさに学際性・国際性を特長とする本研究の意義でもある。

4. 研究成果

[1] 戦時期対外文化政策

戦時期日本の外務省と国際文化振興会による文化外交政策の特徴や問題点を検討し、さらに、宝塚の海外プロモーションの事例を通じて、文化政策の推進者であった官僚、宝塚のような民間の文化生産者といったような、関係者間の様々な思惑や協力関係を分析した。

また、日本の対欧米文化外交を、対植民地文化政策や崔承喜のアメリカ公演と比較しながら、西洋列強と競争できる、アジアにおける唯一の「進んだ文化」の所有者としてのイメージを、戦時期日本がいかに発信しようとしたかを調査した。

研究成果は、2011年に、International Journal of Cultural Policy に掲載したが、これは、2009年岩波書店より刊行された『思想』掲載論文の英語版に対応する。

[2] 日韓における文化政策の比較

朴正熙統治下の韓国政府が、日本の文化政策を取り入れていく政治的・歴史的過程を分析した。

朴政府は「文化韓国」のスローガンを掲げ、精神動員や国学運動の展開など、様々な「文化振興計画」を推進したが、特に、韓国文芸振興院によるセマウル文化運動は、戦時争期日本の大政翼賛会や戦後の新生活運動と、その思想や形において共有している点が数多くある。

この分析において、第一に、韓国政府が文

化政策を取り入れる課程における脱植民地構造の限界や、矛盾した民族主義が伺えた。第二に、韓国側に文化政策の助言を行った日本人政治家、芸術家、思想家の活動やその目的を明らかにした。最後に、ポスト朴時代における文化政策の変容を分析した。

研究成果は、2010年の秋に、The Journal of Korean Studies に掲載した。

[3] 占領期の文化政策

戦時期日本の文化政策が、敗戦後の再建の過程のなかでどのように変容したのかを論じた。

占領下において、文化行政は大政翼賛会から文部省に移され、文部省は、象徴天皇のもとで平和を好む「文化国家」として、日本を刷新するための基礎を提供する役割を担うこととなった。文部官僚は、戦争動員から戦後再建への国家目的の変化に伴い、適切な文化の意味合いを民主主義へと再構成しようとした。この過程においては、アメリカニズムだけが唯一認められた正しい「文化」であったわけではなく、左右翼および階層間の理念的競い合いが激しく行われた。

この分析においては、アメリカと日本という占領・被占領関係に加えて、敗戦後の日本社会自らの内部で生じた葛藤、さらには戦前からのつながりまで考慮に入れることで、当時の時代像が多面的に描き出された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

Sang Mi PARK, "Staging Japan: The Takarazuka Revue and Cultural Nationalism in the 1950s-60s" *Asian Studies Review* (forthcoming, accepted)、査読有

Sang Mi PARK, "Ri Kōran" *Theatre Journal* (forthcoming, accepted)、査読有

Sang Mi PARK, "The Formation of a 'New Japan' under the U.S. Occupation (1945-52): Popular Theater and the Cultural Restoration" *East Asian Studies* 33:1 (February 2014), pp. 135-168、査読有

Sang Mi PARK, 書評 *ABSOLUTE EROTIC, ABSOLUTE GROTESQUE: The Living, Dead, and Undead in Japan's Imperialism, 1895-1945* by Mark Driscoll. *Pacific Affairs* 84:4 (December 2011), pp. 774-776、査読有

Sang Mi PARK, "The Takarazuka Girls' Revue in the West: Public-Private Relations in the Cultural Diplomacy of Wartime Japan" *International Journal of Cultural Policy* 17:1 (January 2011),

pp. 18-38、査読有

Sang Mi PARK, "The Paradox of Postcolonial Korean Nationalism: State-Sponsored Cultural Policy in South Korea, 1965-Present" *Journal of Korean Studies* 15:1 (Fall 2010), pp. 67-94、査読有

[学会発表] (計 8 件)

Sang Mi PARK, "Performing Modern Bodies in the National: the East Asian Context" Asian Studies Conference Japan, Tokyo, June 29-30, 2013 (discussant)

Sang Mi PARK, "'New Japan': Rebuilding the Nation under the U.S. Occupation" The Annual Meeting of the Society for Cultural Interaction in East Asia, Hong Kong, May 10-11, 2013
Sang Mi PARK, "The 'Good' Japanese: Wartime Cultural Mobilization and Theater Movement" The Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies, Hong Kong, Nov. 24-25, 2012

Sang Mi PARK, "The 'Good' Japanese: Wartime Cultural Mobilization and Theater Movement" Conference on Japanese Philosophy in the East Asian Perspective, Taipei, Sep. 1-2, 2012

Sang Mi PARK, "Cultural Diplomacy and Mass Consumerism in Modern Japan" The Association for Asian Studies, Toronto, March 15-18, 2012

Sang Mi PARK, "Japan's Promotion of Cultural Policy in the Era of High-Speed Growth" The Association for Asian Studies, Hawaii, March 31-April 3, 2011

Sang Mi PARK, "Japan's Promotion of Cultural Policy in the Era of High-Speed Growth" The Social Science and Historical Association, Chicago, Nov. 2010

Sang Mi PARK, "Postwar Japan's Cultural Policy, Consumption, and Nationalism" East Asia Institute, Seoul, Sep. 2010

[図書] (計 4 件)

朴祥美 『舞台振興の文化史 日韓比較のカルチュラル・スタディーズ(仮題)』(東京:岩波書店、2014年度刊行予定)
石田佐恵子他編 『ポピュラー文化ミュージアム 文化の収集・共有・消費』(京都:ミネルヴァ書房、2013年3月)所収のコラム執筆、朴祥美 「韓国群山市 日常の歴史を写すミュージアムとしての地方都市」(99 - 100頁)

大澤真幸他編 『現代社会学事典』(東京:

弘文堂、2012年12月)所収の項目執筆、
朴祥美「コンタクト・ゾーン」(466頁)；
「トリックスター」(961頁)
『 () 』[昭和史(上下)](半
藤一利著、朴現美韓国語訳)(ソウル：ル
ビーボックス、2010年8月)所収の解説
執筆、朴祥美「< > 」
[「昭和史」を読むということ](9-12頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
[http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/peakpeople/
park.html](http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/peakpeople/park.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朴祥美(PARK, Sang Mi)
東京大学・教養学部・特任准教授
研究者番号：50508447

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：